



～伝道支援キャラバン参加募集～

中田明義兄：伝道委員会

私たちにとって、開拓伝道所の有無にかかわらず、開拓伝道は途切れず継続して行わなければなりません。この伝道支援キャラバンは教団内兄弟姉妹の相互支援の働きの一つです。伝道委員会は主催教会の伝道プログラムに他教会の兄弟姉妹が参加協力できるように支援いたします。各教会での企画にご利用下さい。

委員会では下記の二点について募集いたします。

- ① 教団内兄弟姉妹の人的支援を希望する教会。
- ② 応募教会の伝道活動に参加したい兄弟姉妹。

*尚、教団から交通費の一部が援助されます。

募集期間 7月1日 ～ 7月31日

応募先 伝道委員会伝道支援キャラバン担当 中田明義(武庫川キリスト教会)

連絡方法 携帯 090-9880-7809 email n_akiyoshi@hotmail.com

fax 06-6417-4938

《告知板》個人伝道トレーニング開催のお知らせ

家族や友達に神様の事を伝えたい!」と思うことはありませんか?

きっと皆さんが常日頃から思っていることだと思います。

でも、実際どのように伝えればいいのか?というところで止まってしまいませんか?

この度、CCCのスタッフの方をお招きして個人伝道トレーニングを開催することになりました。

キリスト者である私たちは誰もが、主の宣教のために歩んでいます。

今回のプログラムでは Knowing God Personally (KGP) という冊子を用いる方法を学びます。

日時: 2017年11月3日(金・祝) 11時～11月4日(土) 16時

場所: 日本メノナイトブレザレン教団広島北キリスト教会

〒731-0144 広島市安佐南区高取北4-3-11 TEL 082-872-4011

＜問い合わせ及び申込みについて＞

電話番号: 082-872-4011・メールアドレス: hiroshimakita4011@yahoo.co.jp

ご注意: 遠方の方への交通費の補助はありません(自費)

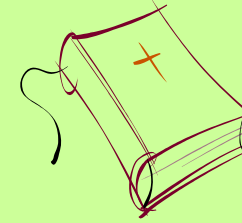
* 編集後記 * ・皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行: 日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋3丁目7-15 TEL: 072-762-5731

発行者: 田畑雅紀(伝道委員長) 編集者: 河野和雄(広報担当)

伝道ニュース 《特別号》



開拓伝道のビジョンを語る【9】



服部 尚師: 藤が丘キリスト教会
(元伝道委員会副委員長)

『初代教会の開拓伝道への備え』

ダラス神学校教授のボーク師のグループは開拓伝道をするときは教会から200名を分けて始めるということです。そうしないと教会形成には時間がかかり過ぎてしまうということでした。良いアイデアと思いますが、それができない私たちは何ができるでしょうか? 神さまが初代エルサレム教会で用いた開拓伝道の方策は私たちも見倣えるものがあると思います。AD33年のペンテコステの日に神さまの右の座からイエスさまが約束の御霊を遣わされ、エルサレムの地に教会を開始されました(使徒 2:33-36)。御霊に導かれた12使徒の効果的な働きで教会は御霊に満たされ、使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをし、畏れを持って礼拝を捧げていました。主も毎日救われる人々を教会に加えてくださいました。(使徒 2:42-47)。ここで興味深いことは、神さまはエルサレム教会が開拓伝道を開始するまで2年間待たれたということです。それは、12使徒の奉仕を通してエルサレム教会が人数的にも霊的にも成長を遂げなければならなかったからです。2年という期間で神さまは12使徒を用いて教会に加えられた人々をイエスさまの弟子(学んだ人)として、神さまがどこに導かれても福音を分かち合うことができるように訓練されたのでした(使徒 2:42-47;6:1-7)。教会誕生から2年ほどが経過しイエスさまを信じた兄弟が弟子に成長したとき、キリストの最高の弟子であったステパノが殉教の死を遂げます(使徒 7:57-60)。このときからエルサレム教会は厳しい迫害の下に置かれることとなり、教会員は福音の種としてユダヤとサマリヤ、また、地の果てにまで蒔かれることになりました(使徒 8:1)。これがエルサレム教会の開拓伝道の始まりとなりました。異邦人宣教の本拠地となったアンテオケ教会がどのように開拓されたかを見て開拓伝道のヒントを得ましょう。神さまはこの教会を建て上げるために3人を用いられたことが分かります。第1は殉教の死を遂げたキリストの弟子のステパノです。彼と同じように迫害によって散らされた弟子たちは行く先々で福音を分かち合う弟子に成長していたことが分かります。困難な中で犠牲が強いられても福音を語る弟子たちを用いて神さまは教会の開拓をされることが分かります(使徒 11:19-21)。アンテオケ教会を開拓するために神さまが用意された2番目の人はバルナバでした。エルサレム教会は困難なときに大きな励ましとなったキリストの弟子バルナバを、開拓中の教会の励ましとして送ったのでした。教会開拓は犠牲的な兄弟と共に励ます弟子が必要なのです(使徒 11:22-24)。しかし、バルナバはしばらく奉仕をする中で限界を感じました。アンテオケの教会をさらに建て上げるために神さまが求めた第3の弟子はパウロでした。バルナバはわざわざパウロを探してタルソに行き、開拓中のアンテオケ教会に連れ戻りました。パウロはみ言葉を教える賜物がありましたので、彼の1年間のみ言葉の奉仕で、兄弟は人々から「クリスチャン」というあだ名で呼ばれるほどのキリストおたくに成長したのでした(使徒 11:25-26)。主は教会のあなたをキリストの弟子(犠牲をいとわない弟子、励ます弟子、御言葉の弟子)へと成長させて、教会を開拓されます。ドイツのMB150周年記念大会に参加したときに、このことを目の前にすることができ感謝でした。開拓10ヶ月の教会

でメッセージをする機会が与えられたときのことです。3 家族が母教会から遣わされ、教会運営のすべてを任されていました。一番中心の兄弟は仕事が終わって伝道や教会のために時間とエネルギーを使うことを何よりも喜びに感じているということでした。毎日曜日にレストランを借り、PA システムや賛美歌などを持ち込み、椅子を並べて 70 名ほど集まっていました。メッセージも賜物のある兄弟たちがしていて、有給のスタッフはいませんでした。あなたもキリストおたくになりませんか？

「家の教会」シリーズ #3

『家の教会を包括する教会』

私は「家の教会」について語る資格がありません。なぜなら、まだ「家の教会」の醍醐味をまだ味わっていないからです。ただ長年いろいろな「家の教会」を観察し、生き生きとした「家の教会」システムに感動してきました。私が最初に「家の教会」の幻を持ったのは 1995 年でした。そこで「家の教会」について私なりに確信していることを述べさせていただきます。

「家の教会」と聞くと、「家庭集会」のようなもので、将来教会になる前段階だと思う方々が多いと思います。しかしここで言う「家の教会」は開拓初期段階の家庭集会のことではなく、終末に至るまでずっと「家の教会」として、その良さを醸し出し続ける「家の教会」のことです。

それでは、どのようにして、終末に至るまでずっと「家の教会」として、その良さを醸し出し続けることができるのでしょうか。普通は、集会が大きくなったら、牧師を招聘し、会堂建築をして、普通の教会になってしまうのではないのでしょうか。そうではなく、ここで言う「家の教会」は、公同教会に包括されて生き続ける教会のことです。しかし公同教会に包括されて生き続ける教会などなかなかイメージできないのではないのでしょうか。実際、教会史を眺めましても、包括しにくかった事例ばかりです。私たちの教派の源流である再洗礼派も例外ではありません。彼らは当時の体制教会からすれば包括できなかった「家の教会」(旅する家の教会)でした。プロテスタントもカトリック体制から外れたのですが、再洗礼派はもっと外れたのです。体制教会(チャーチ)から外れて、あの時代は、カルトと間違われるほどの分派教会(セクト)とされてしまったのです。その危うさのなかに初代教会に類似する力が温存されていたにも関わらず、既存の教会は彼らを包括できませんでした。

そこで武庫川キリスト教会で、「公同活動」と「自主活動」という両用語を用いて、無知ながら、小さい教会史をやってみようと思ってやってきました。つまり包括する「公同活動」と包括される「自主活動」の二つが絡みあって、実験していく教会です。その「自主活動」の延長線上に「家の教会」が湧き出して来ないものかと期待しています。私なりの「家の教会」の考え方として、次のように考えています。教会の中心はもちろん公同教会なのですが、公同教会に包括される「家の教会」ももう一つの中心と考えています。二つの中心が危うさのなかでも適合しつつ、対話しつつ、生きていくことができればと思っています。

さて、「家の教会」を実践している招待キリスト教会のモデルチャーチをご紹介します。この教会は、「共同礼拝」と「家の教会」と「道シリーズ」(勉強会)の三つの中心があります。よくできたシステムです。「家の教会」は、ホストである「牧者」を中心に食事を楽しみながら広がる共同体です。この5月には全国の牧師会ならぬ、牧者会が行われ、尼崎キリスト教会から牧者たちが参加されたそうです。招待キリスト教会



武田 信嗣師
(審議委員会委員長)
武庫川キリスト教会

には、30 の家の教会があり、30 人の牧者が開拓 30 年で約 300 人礼拝の教会になりました。家の教会の人数が礼拝人数よりも多いのも興味深いところです。

私が牧会している武庫川キリスト教会では、まだ一つも家の教会がありません。形としてはまだありませんが、すでに家の教會的に歩んできた人たちがいますので、きっとこれから自然に湧き上がってくると思っています。武庫川キリスト教会文化という文化があり、人と人の接着剤、共同体の繋がり方が文化によって異なることをしみじみ感じつつ、さてどのようにしたら良いだろうかと考えつつ、今も「自主活動」と「家の教会」のなかに日本宣教の突破口があると信じています。

2017年度アクションチームの来日 !!

中島若樹師：伝道委員会 JMS
アクションチーム担当

今年も日本 MB 諸教会の伝道活動の助けとして、伝道委員会は北米 MB ミッションの協力によりアクションチームをお招きします。今年はカナダから男性 2 名の青年チームが 7 月 9 日~8 月 7 日まで来日します。メンバーを紹介します。



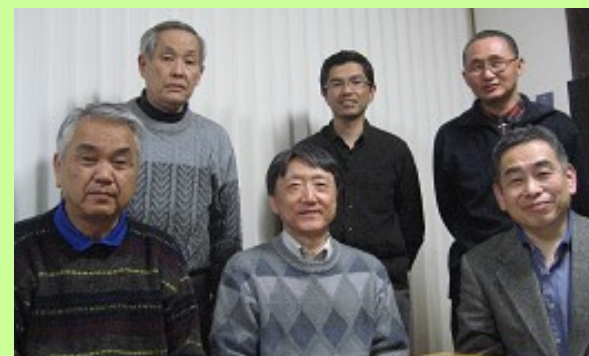
*スコット・スタンフェルさん (チームリーダー 20 歳)
私はオンタリオ州オタワ出身で現在、カールトン大学の学生で言語学を専攻し応用言語学と日本語をマイナー専攻しています。卒業の将来は通訳者になりたいと願っています。今年のアクションチームについて私が楽しみなことは昨年知り合った友人たちと再びつながり、神様の日本への計画を発見し続けられることです。

*ハリソン・ローランドさん(21歳)

私はマニトバ州ウィニペグ出身で福祉関連の仕事をしています。読書、絵を書くこと、書くこと、映画を見るのが好きです。私は日本に心引き寄せられる沢山の理由がありますが、中でも日本の文化にひたり、その歴史と未来の文脈においての教会の役割をより理解したいという願いがあります。



2017 年度伝道委員会メンバー紹介



上段左側より
河野和雄兄(書記/広報:堺中央)
中島若樹師(JMS:能勢川)
藤井義生師(新任・副委員長:長瀬)
下段左側より
中田明義兄(会計:武庫川)
服部 尚師(退任:藤が丘)
田畑雅紀師(委員長:いずみ)